

2012年度計画

下記日程には一部予定を含みます。

- **3月** 3月8日(木)：2012年度事業計画説明会開催(企業・団体向け)
大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会の事業計画説明と
研修受入プログラム作りのポイント説明
- **4月** 上旬：受入依頼状等を企業・団体に発送
インターンシップ研修生受入の可否及び
インターンシップ受入プログラム合同説明会参加の有無について照会
- **5月** 5月7日(月)：受入可否・合同説明会参加可否回答締切
上記送付書類(アンケート等)の回答締め切り
- **6月** 6月2日(土)：合同説明会開催(9:00-17:00)
6月27日(水)：各大学から企業・団体へインターンシップ研修申込書発送
- **7月** 7月2日(月)～12日(木)：企業・団体の学生面接
学生の研修希望先での面接
- **8～9月** インターンシップ研修
- **9月** 上旬：研修先企業・団体にアンケート送付
- **11月** 上旬：拡大懇談会開催

各大学インターンシップ連絡先

〈事務局担当校〉

愛媛大学

《教育学生支援部 就職支援課》
(担当/武智)

〒790-8577 松山市文京町3番

T E L 089-927-9164(直)
F A X 089-927-9181

■<http://www.ehime-u.ac.jp/>

松山大学

《教務部 教務課》
(担当/高橋・井上)

〒790-8578 松山市文京町4-2

T E L 089-926-7137(直)
F A X 089-923-8920

■<http://www.matsuyama-u.ac.jp/>

松山東雲女子大学 松山東雲短期大学

《学務部 就職進路支援課》
(担当/藤田)

〒790-8531 松山市桑原3丁目2-1

T E L 089-913-2610(直)
F A X 089-931-6402

■<http://www.shinonome.ac.jp/>

編集・発行/大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会

● 制作/NPO法人えひめ中小企業支援協会 〒791-8042 松山市南吉田町2821-4 ビズポート
T E L 089-968-8802 F A X 089-968-8872

2011年度 インターンシップ・プログラム実施報告書

大学コンソーシアムえひめ インターンシップ部会



ごあいさつ

2011年度のインターンシップ研修実施のお礼と来年度の取り組みへの協力をお願い

大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会 2011年度部会長 大塚 暢幸
(松山東雲女子大学・松山東雲短期大学 就職進路支援部長)

2003年度に愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会が結成され、2009年度からは「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」へ名称変更されて以降、皆様方には多大なご支援を賜りありがとうございます。本年度も、4大学のインターンシップ研修が無事終了いたしました。この場をお借りして御礼を申し上げます。

2011年度から、大学・短大設置基準が新しくなり、教育課程に「社会的・職業的自立に向けた指導」を盛り込むことが義務付けられました。その中、各大学からの報告によりますと、研修を受けたほとんどの学生が、働くということの実感を得て、それを通して自分自身の問題点の発見や大学での学びに対する心構えを見直したりするよい機会となったとして、研修に満足しているとのことでした。受け入れていただいた事業所の皆様方には、大変なご苦勞があったことと存じます。改めて感謝いたします。

さて、インターンシップは、研修を受ける学生や送り出す大学だけでなく、受け入れていただく事業所にも多大なメリットがあります。そして双方にとっての成功の鍵は、研修目的の共有、プログラム内容における相互理解によるところが大きいと考えます。この点に関しては、私たちも改善に努めておりますし、皆様方には大変ご尽力をいただいているところで



すが、まだまだ試行錯誤の部分も多々あるかと思います。しかしながら、お互いがコミュニケーションを取りながら「試行錯誤すること」こそ、インターンシップの質的向上には、特に重要なことではないかと考えます。

インターンシップ部会では、インターンシップ事業計画説明会、インターンシップ研修受け入れ合同説明会、拡大懇談会などを通して、相互に情報交換し、インターンシップ研修の質的向上に関する取り組みを続けてまいりました。来年度も引き続き、より一層の質的向上を図りたいと思います。今後とも、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

これまでの経緯



1990年代初頭にバブル経済が崩壊して以後、「失われた10年」はこれまでの日本型システムの多くを変容させ、特にその当時、新卒学生の就職状況が悪化する中で、フリーターやニートといった若者雇用問題が大きな社会問題となっていました。

そのような中、1997年9月、当時の文部省・通商産業省・労働省の三省は合同で「インターンシップの推進に当たっての基本的な考え方」を発表しました。在学中に就業体験を行うというこれまでの学校教育にはない新しい取り組みが政策レベルで模索され始め、今日では多くの高等教育機関でその実践が展開されています。

愛媛県内の高等教育機関でも独自にインターンシップを教育課程に取り入れてきましたが、無差別な受入要請が地域におけるマッチング秩序を混乱させるという実態が発生しました。2003年、受入先等の要望もあり、愛媛県中小企業家同友会の協力を得て、県内4大学(愛媛大学・松山大学・松山東雲女子大学・松山東雲短期大学)が中心となり地域における大学生のインターンシップを統一的に運営するため、「愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会」が設立されました。

2009年には、愛媛県内で大学コンソーシアムができ、「愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会」は「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」へと移行しましたが、設立当初からの目的、また地域の各組織との連携関係を変えることなく、事業を展開しています。



インターンシップへの取り組み

愛媛大学

本学では、2003年の「愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会」設立以後、インターンシップ委員会を中心に学生の企業等での研修を推進してきました。連絡協議会が2009年に「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」に移行してからも、変わらず全学一致の体制で学生のインターンシップ研修に取り組んでいます。

この5年ほどでの大きな変化は、全学統一のガイダンス・事前指導の実施、(特に文系での)低年次でのインターンシップ履修です。またこの間に、理工系の実習科目や留学生のインターンシップ、海外インターンシップなど、本学の在学生の事情に沿った独自のインターンシップも展開してきました。このことはインターンシップの取り組みが学内で広まり、その重要性が認知された結果といえるものです。愛媛大学のインターンシップの充実、連絡協議会とインターンシップ部会の礎の上に成り立ってきました。

本学は、これまでに連絡協議会、インターンシップ部会の幹事(事務担当)校を計3回務めさせて頂きましたが、その間、日本学生支援機構の地域連携事業にも支援を頂き、拡大懇談会などを通じて受入先の皆様と事例の検討会・研修会を開催してきました。その成果を活かすべく、愛媛大学もよい受入先となるべく受入担当者の研修を2008年度より本格的に実施しています。よいインターンシップはよい受入担当者からはじまる。事例検討会・研修会で得られた知見を受入先としても活用しています。

2012年度は、「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」の幹事校が愛媛大学に変わります。学生のインターンシップ機会の確保と送り出し、より良いインターンシップ受入先としての大学、また受入先の皆様とのキャリア教育の産学連携を今後もリードできるように取組を進めていきたいと考えていますので、ご協力ほど、よろしくお願い申し上げます。

松山大学

松山大学におけるインターンシップの取り組みは、経営学部では1995年に学生自らが研修受入先と受入交渉を行い職場研修を行う方式により、一方、経済学部では1998年に愛媛県中小企業家同友会と西四国観光ネットワーク「るーらるぽけっと」の会員企業を中心とした研修受入先に学生を派遣し職場研修を行う方式により始められました。

その後、2001年度には2つの異なる方式で実施されていた両学部(経済・経営)のインターンシップの取り組みは統合され、両学部合同で実施される方式になりました。

さらに、2002年度からは人文学部と法学部においても、インターンシッププログラムがカリキュラムに取り入れられ、文系学部すべてで実施されるプログラムとして全学部共通のプログラムと位置づけられました。

現在、本学でのインターンシップは、共通教育科目の1つと位置づけられており、プログラムは、前期科目として「インターンシップⅠ」(週1回、全15回の講義形式科目)、夏休み期間を利用した職場体験として「インターンシップ研修」(実働30時間以上、或いは実働60時間以上の実務)、さらに後期科目として「インターンシップⅡ」(週1回、全15回の講義形式科目)という方式で実施しています。

このような学内におけるインターンシッププログラムの展開とともに、2003年度には愛媛大学・松山大学・松山東雲女子大学・松山東雲短期大学が「インターンシップ連絡協議会」を結成し、インターンシッププログラムにおける研修先の受入れ、受入プログラムの説明会の開催、受入先での面接時期の設定等に関して一定のルール作りを行い、プログラムの共通化を図ることになりました。さらに、2009年度からは上記の連絡協議会の名称を「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」と改め、愛媛県内4大学間でインターンシッププログラムを共同で運営することとなりました。

松山大学では、2011年度、91名の学生が夏休み期間を利用してインターンシップ研修を行いました。本学インターンシップ教育実施委員会では、1研修受入先につき1つの代表報告レポートを研修生の中から選考し、それらをまとめたものが本報告書でございます。

掲載された各報告レポートには、研修生の研修先での新鮮な体験が散見されると思います。皆様方には、本報告レポートの1つひとつをじっくりと読んで頂き、学生達が研修先で何を感じ、どのような課題に向き合い汗を流したかについてご理解頂ければ幸いです。

最後に、今回、インターンシップ研修生を受け入れて戴いた企業・団体、並びにご協力戴きました皆様方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学

本学では、2003年度より女子大学および短期大学でキャリアサポートセンターを中心にインターンシップ研修を進めて参りました。また、2008年度からはキャリアサポートセンターと就職進路課を一本化し、就職進路支援課としてインターンシップ研修や低学年からのキャリア教育、就職活動に至るまで一貫して支援を行う態勢を整えました。低学年のキャリア教育としては、大学の正規授業の中で、職業について考える「キャリア論」や「ビジネスコミュニケーション」などの科目を配置し、研修の事前教育として「マナー研修」なども実施しております。一方、短期大学ではカリキュラム全体を通して職業に直結する教育を展開しております。中でも秘書科は、1年生で「プレ・ビジネスインターンシップ」という授業で短期間のインターンシップを経験し、2年生では就職活動とともに「インターンシップ研修」に取り組みます。これらの経験は学生にとって、“社会にふれる”貴重な体験であり、そのことによっての“気づき”は大きな力となります。特に研修後の報告会では、すべての学生が、受入企業様の温かさや社会人としての責任の重さを実感したことなど、自分なりの成長を報告してくれます。研修受入企業・団体の皆様には、学生の実態を見て頂くだけではなく、“働くことの意味・やりがい”などについてご指導賜りたく、今後とも変わぬご支援をお願いいたします。

2011年度インターンシップ研修報告書

今年度も県内4大学に在籍するたくさんの学生が参加し、インターンシップ研修が行われました。
受け入れ企業向けの事業計画説明会を始め、年間を通じた研修事業の状況をご報告いたします。

事業計画説明会

事業開始の恒例行事として、受け入れを予定している企業や団体等に向け、プログラムの説明会を開催しました。



合同説明会

愛媛大学、松山大学、松山東雲女子大学と松山東雲短期大学に在籍する400名余りの学生が参加。受け入れを表明し、説明会に参加した企業や団体のプレゼンテーションを受けた後、思い思いに個別面談ブースをまわって研修内容の説明などを受け、熱心に質問をしていました。



拡大懇談会

その年度のインターンシップ事業を総括するため、毎年この時期に開催。今年度は研修生を受け入れていただいた20企業・団体のご担当者にお集まりいただき、より活発な意見交換をするため、ワールドカフェ形式を導入。それぞれ、忌憚のないご意見をいただき、来年度の事業をさらに充実させるよい機会となりました。



年間スケジュール

年間スケジュール

3/9
火

インターンシップ受入プログラム合同説明会への参加の有無とインターンシップ研修生受入プログラム内容に関するアンケート送付

4月
下旬

アンケート等の
締め切り

5/6
金

6/4
土

各大学から学生の
研修申込書を
研修希望先へ送付

6/27
月

研修希望先での面接

7月
月上旬

8月～
9月

インターンシップ研修生
受入企業へのアンケート
(回収数68 / 配付数78)

9/30
金

11/16
水

インターンシップ研修期間 ※前期試験終了後から9月授業開始まで（4大学合計240名が61の企業・団体で研修を受ける）

参加者の声

愛媛大学 教育学部 総合人間形成課程 2年 梶田 真希
研修先：伊予鉄道株式会社

初めての接客業務ということに加えて、改札に女性がいないことを珍しがられ、「ありがとうございます」と声をかける度にお客様に注目されたこともあり、最初は緊張しましたが、すぐに大きな声で挨拶ができるようになり、最初は硬かった表情も次第に笑顔で対応できるようになりました。

接客業務を経験したことで、日常生活で、初対面の人とも、今までより「はきはき」と笑顔で話せるようになり、「私はインターンシップでとても良い経験をしたんだな」と思いました。4日間という短い期間ではありましたが、自分の新たな一面を知ることができ、とても有意義なインターンシップ研修でした。将来、私が接客業の仕事に就くかどうかはわかりませんが、どのような職に就いたとしても、この経験は生きてくると確信しました。今後は、この経験が無駄にしないよう意識して毎日を過ごしていきます。研修でお世話になった皆様、本当にありがとうございました。

参加者の声

松山大学 経営学部 経営学科 2年 東 訓子
研修先：能力開発システム研究所

初めて「人との繋がり」の大切さを体感する事が出来たのが、今回のインターンシップでした。私は、今まで人脈や友人の大切さも、実感としてはあまり湧くことが出来ませんでした。しかし、インターンシップによってその考えは逆転されました。

よく考えると、「企業」とは「人」が集まって成っているものであり、人と人が協力し仕事を行う場所です。そんな人間同士の事なのに、チームで働く力や、相手を敬う態度、コミュニケーション力を粗末に考えてはいけないと、今回の研修で気づきました。留学が長く個人主義の考えが根付いていた私にとって、インターンシップを通して、周囲の人に対する「感謝の心」や「人の大切さ」を持つようになりました。一見すると、これは当たり前の感情ですが、人間性を構築する上での大きな土台です。その土台を築きかけを下さった能力開発システム研究所の皆様には、厚くお礼を申し上げます。

参加者の声

松山東雲女子大学 人文科学部 3年 川本 あかね
研修先：テイサービスセンター 梅本の里

研修を終えて、私は「働くこと」とは、大変であると共に、人として成長することだと学びました。私の研修先は、高齢者のサービスセンターで、通所している高齢者の方と、その人の人生のほんの一部に携わるところでした。人を相手にする仕事だったため、良かれと思ってやったことが、迷惑がられてしまったり、自分が思っている通りにならなかったりということがありました。そういった壁にぶつかり乗り越えることが自己成長することにおいて大切なことであり、働くことにおいて、とても重要だと考えています。

私たち学生には、壁にぶつかった時、くじけないように道を示してくれる人がいます。しかし、「社会人になる」ということは、自分の力でその壁を乗り越えるということなのだと思います。様々な人と関わり、人は成長し、「社会人になる」ということは、自分の言動・行動の一切に責任を持つことだと研修を通して学ぶことができました。

参加者の声

松山東雲短期大学 秘書科 2年 渡部 沙友里
研修先：NPO法人 Eyes

今回、一ヶ月という長い期間で研修に取り組み、大学の中では気づくことのできなかった「働くこと」の「厳しさ」と「やりがい」を学ぶことができました。社員の方々は私に対して、常に厳しく真正面から向き合ってくださいました。私もその一つ一つ受け止めながら、自分の仕事に臨む姿勢に足りていない部分は何かを考えながら、任されたプロジェクトに対して真摯に向き合い、進めていきました。まだまだ自分に足りていない部分はたくさんあり、一方で自分の強みについても知ることができた一ヶ月でした。

今回の研修を受け、電話対応や来客対応など秘書科で学んだことを具体的な実践を通して学びなおすことができました。大学では、与えられた課題にゴールがあって、完成したという達成感も抱きやすいですが、仕事にははっきりとしたゴールはなく、自分達で考えられる最善の努力を怠らず前に進んでいくことが大切なのだと思います。



7年間の研修生受け入れ企業担当者アンケート集計結果から

大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会長 大塚 暢幸

1.2010年度の結果から、「単なる社会貢献ではなく、受け入れメリットを意識する受け入れ先が増えている。」という指摘がなされていました。この指摘については、2011年度も同様の傾向でした。

2.2011年度の研修生を受け入れて得られた効果について、以下の項目で、

①インターンシップを通して、学生の就業意識が向上した
(多少あてはまる・非常にあてはまるの項目で合わせて87%)

②指導にあたった、社員が成長した
(多少あてはまる・非常にあてはまるの項目で合わせて75%)

③大学や学生に自社認知度を高められた
(多少あてはまる・非常にあてはまるの項目で合わせて83%)

④インターンシップ研修生を受け入れたことで職場の活性化した
(多少あてはまる・非常にあてはまるの項目で合わせて70%)

など肯定的なご回答・ご意見を多くいただきました。

①インターンシップを通して学生の就業意識が向上した。 ②指導にあたった社員が成長した。 ③大学や学生に自社の認知度を高められた。 ④インターンシップ研修生を受け入れたことで職場が活性化した。

項目	2010年度	2011年度	項目	2010年度	2011年度	項目	2010年度	2011年度	項目	2010年度	2011年度
1 全くあてはまらない	0.0%	0.0%	1 全くあてはまらない	0.0%	0.0%	1 全くあてはまらない	0.0%	0.0%	1 全くあてはまらない	0.0%	1.6%
2 あまりあてはまらない	6.0%	7.9%	2 あまりあてはまらない	11.9%	17.2%	2 あまりあてはまらない	9.0%	9.4%	2 あまりあてはまらない	14.9%	18.7%
3 どちらともいえない	6.0%	4.8%	3 どちらともいえない	14.9%	7.8%	3 どちらともいえない	4.5%	7.8%	3 どちらともいえない	9.0%	9.4%
4 多少あてはまる	62.7%	60.3%	4 多少あてはまる	44.8%	57.8%	4 多少あてはまる	55.2%	54.7%	4 多少あてはまる	53.7%	51.6%
5 非常にあてはまる	25.3%	27.0%	5 非常にあてはまる	28.4%	17.2%	5 非常にあてはまる	31.3%	28.1%	5 非常にあてはまる	22.4%	18.7%
計	100.0%	100.0%	計	100.0%	100.0%	計	100.0%	100.0%	計	100.0%	100.0%

拡大懇談会でのコメント

2011年度拡大懇談会は、初めての企画でしたが“ワールド・カフェ”の形式で行ってみました。内容・目的と実施コメントは以下のとおりです。

●ワールド・カフェ

知識や知恵は会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話をを行い、自由にネットワークを気づくことができるカフェのような空間で生まれる。

●今回のワールド・カフェの目的

立場や業種の異なるインターンシップの受け入れ担当者との交流を通じて、今後のインターンシップ受け入れについて、新しい気づきを得ること。

●実施のコメント

今年度初めての企画であり、前年度との直接の比較は難しいが、「概ね卒直な意見交換ができ有益であったとの意見が多く寄せられた」と報告ができるものと思われた。同時に、初めの企画であったことから、企業参加者数・時間配分・テーマ設定等、検討課題も指摘された。今回の結果を参考に、今後、受け入れ企業との新しい懇談の場としての“ワールド・カフェ”の運用に反映させていただきたい。

受入企業・団体一覧（順不同）

1 NPO法人Eyes	31 株式会社サニクリーン四国
2 あけはまシーサイドサンパーク株式会社	32 株式会社ジェイアール四国アーキテクツ（森の国ホテル）
3 特定非営利活動法人アジア・フィルム・ネットワーク	33 四季彩農園
4 アビリティセンター株式会社	34 ジョブカフェ愛work（愛媛県若年者就職支援センター）
5 今治市役所	35 生活協同組合コープえひめ
6 特定非営利活動法人いよココロザシ大学	36 株式会社ダイキアクシス
7 株式会社伊予鉄高島屋	37 株式会社大屋（ドラッグストアmac）
8 伊予鉄道株式会社	38 太陽石油 株式会社
9 医療法人財団尚温会伊予病院	39 株式会社田窪工業所
10 株式会社ヴィンテージアイモク	40 株式会社テレビ愛媛
11 株式会社エイチ・アイ・エス関西営業本部	41 東京海上日動火災保険株式会社
12 ティサービスセンター 梅本の里	42 社会福祉法人 道真会
13 愛媛県	43 トヨタL & F西四国株式会社
14 愛媛県司法書士会	44 トヨタカローラ愛媛株式会社
15 財団法人愛媛県動物園協会	45 南海放送株式会社
16 株式会社愛媛CATV	46 NPO法人にいはま市民企画ノボック
17 国立大学法人愛媛大学	47 新居浜市役所
18 愛媛トヨタ自動車株式会社	48 ニンジニアネットワーク株式会社
19 有限会社愛媛ヒアリングエイド えひめ補聴器センター	49 有限会社能力開発システム研究所
20 株式会社エフエム愛媛	50 株式会社ハート
21 有限会社 遠藤育汁	51 NPO法人俳句甲子園実行委員会
22 有限会社オルネット	52 株式会社 ヒロヤ
23 株式会社キャップ	53 株式会社フジ
24 霧の森（株式会社やまびこ）	54 松山大街道商店街振興組合
25 こうち人づくり広域連合	55 財団法人松山市男女共同参画推進財団
26 NPO法人こころ塾	56 松山市役所
27 認定こども園 小羊園	57 松山総合開発株式会社 松山全日空ホテル
28 株式会社コモテック	58 学校法人松山大学
29 西条市役所	59 松山ヤクルト販売株式会社
30 佐川印刷株式会社	60 松山地方法務局
	61 合資会社ワークショップco.松山